

公益信託 NEXCO関係会社高速道路防災対策等に関する支援基金
 受託者 三菱UFJ信託銀行株式会社 宛

研究概要書

研究課題：大災害時に置ける DMAT 医療チームの高速道路活用及び SA/PA の活用に関する研究

研究代表者：国立病院機構災害医療センター	臨床研究部長	小井土 雄一
共同研究者：国立病院機構災害医療センター	政策医療企画研究室長	近藤久禎
国立病院機構災害医療センター	医師	小早川義貴
国立病院機構災害医療センター	非常勤医師	鶴和美穂
国立病院機構災害医療センター	災害医療技術員	市原正行
国立病院機構災害医療センター	災害医療技術員	大野龍男

はじめに

3.11 東日本大地震の際、全国の約 80 チームの DMAT（災害医療チーム）が発災直後から被災地に向かった。この時陸路参集チームは、東北自動車道はもとより常磐、磐越、北陸など高速道路を活用して被災地に向う事となった。その際に給油や食料の補給、一時休憩場所として多くの SA/PA を使用した。しかし、高速道路の活用は以前から予想はされていたが、訓練や連携は行なわれてはいなかった。医療と高速道路は一見何のつながりも無いが、実は救急搬送や災害時の迅速な移動、大規模な事故での Dr ヘリによる患者の搬送などいろいろな面でつながりを持っている。これらの事を踏まえて DMAT 医療チームと高速道路の活用を研究する事で、被災者救済に役立てる。

1. 研究の目的

災害医療は、災害救護に関わる部署との連携や情報共有は非常に重要となる。以上の背景のもとに、いざという災害時に円滑、かつ効率的な支援活動につなげていくために、高速道路 SA、PA の活用方法の検討、また有用性の検討を、訓練を通じて検証していくのが本研究の目的である。

2. 研究の内容

現在全国に災害医療の専門家 DMAT チームは 1054 チームが登録されている。このチームの技術の向上及び維持、また災害時に円滑な救護活動がおこなえるよう、全国を 8 ブロックに分けて、ブロックごとに毎年 2 回以上の訓練、研修を行なっている。このブロック訓練は必ず 1 回は実地訓練をする事になっており、その際に NEXCO 各社と協力をして、SA、PA などを情報及び参集の拠点とし、災害医療チームと NEXCO の今後災害時の協調や調整、協力がどのようにできるのかについて、実地訓練を通じて検証した。また、医療チームだけでなく、それぞれ地域の消防や警察などとも訓練を行なうことにより、他機関との連携や情報共有の場所としての SA/PA 有用性を訓練を通じて検証した。

3. 主な訓練実施実績

訓練日時	訓練主催	高速道路	参集場所	特徴	備考
2013. 8. 31	政府広域搬送訓練	東名高速道路	豊田 IC/豊田保全	保全事務所を使用・警察との協力	21チーム
2013. 8. 31	政府広域搬送訓練	阪和自動車道	下り 紀ノ川 SA	医療資機材の搬入集積	11チーム
2013. 8. 31	政府広域搬送訓練	新名神高速道路	土山 SA	除雪車両基地/上下線からのアプローチが可能	18チーム
2013. 9. 20	関東ブロック訓練	東名高速道路	下り 海老名 SA	エアータントでの設置	35チーム
2013. 10. 5	東北ブロック訓練	東北自動車道	下り 国見 SA	自衛隊との協力/自衛隊車両への乗り換え/被災県外での設置	14チーム
2013. 10. 26	近畿ブロック訓練	名神高速道路	栗東 IC/管理事務所	事務所内での活動	22チーム
2013. 11. 2	中部ブロック訓練	第2 東名高速道路	上り 浜松 SA	静岡県の指定参集拠点 県職員が設置, 情報提供	25チーム
2013. 11. 9	中国ブロック訓練	山陽自動車道	上り 沼田 PA	テントにて仮設置 警察に道路使用許可申請	19チーム
2014. 02. 22	四国ブロック訓練	高知自動車道	下り 南国 SA	一時立寄参集のみ	
2014. 03. 14	NEXCO 東日本	常磐自動車道	上り 守谷 SA	開店前のフードコートを使った室内訓練	5チーム

※ そのほかに NEXCO 西日本広島支社との DIG 訓練に参加

4. まとめ、今研究で得られた成果、今後の課題等

昨年度は合計 10ヶ所での高速道路を使った DMAT 訓練が行なわれた。実際に訓練を行なう事によって、見えて来た事は SA, PA だけではなく、NEXCO の管理施設等を実際に利用させてもらいより大きい可能性を見いだす事が出来た。今後も地方ごとに訓練を重ね地域の実状にあった災害に強い参集拠点や活動の指揮拠点になるように計画、実施して行きたい。

また今年度の訓練では、一部の地域で自衛隊との協力及び警察との協力情報交換が行なわれたが、守谷 SA のように NEXCO が主体となって、関係機関を多数集め、ハードの面からも防災拠点化する試みは高く評価出来る。引続き首都直下地震だけでなく、東南海トラフ地震に向けた NEXCO 中日本、西日本の SA を使った防災拠点化等が進められる事が重要であり、その際には災害医療のプロフェッショナルとして DMAT が関わって行ける土壌を引続き作って行きたい。

5. 関係資料、報告書、

資料-1 DMAT 訓練における高速 SA/IC を参集拠点とする事について 25 年集団災害医学会発表

資料-2-1 政府広域医療搬送訓練 豊田東 IC 活動拠点

資料-2-2 政府広域医療搬送訓練 紀ノ川 SA 活動報告

資料-2-3 政府広域医療搬送訓練 土山 SA 活動報告

資料-3 関東ブロック訓練海老名 SA 参集拠点報告書

資料-4 東北ブロック訓練国見 SA 参集拠点報告書

資料-5 近畿ブロック訓練栗東 IC 参集拠点報告書

資料-6 中部ブロック第2 東名浜松 SA 参集拠点報告書

資料-7 中国ブロック沼田 PA 参集拠点報告書

資料-8 守谷 SA 防災拠点訓練報告書